

=私たちの活動 4つの柱=
*制度化と指導員の身分保障
*専門性と仕事の確立
*父母と共に学童保育運動の発展
*全国の指導員との団結と連帯

建交労全国学童保育部会

ニュース学童保育

2024. 8. 1.
NO. 116
全日本建設交運一般労働組合
全国学童保育部会 発行
編集：事務局



新しくなった市役所の展望デッキで。東京までも見えるそうです。

登録児童数（自由利用数と定期利用数及びそれぞれ）の児童保護者就労の児童数）と川崎市に届け出している児童・放課後児童クラブ

安心して働きたい
しかし、どこの自主学童保育所も安定的な運営は難しく、毎年のように保育料が値上げされ、今ではどこの自主学童保育所も保育料は月3万円以上となっています。
安定的な運営には、安定したお金が必要です。保育料に左右されずに先を見通せた運営ができるからこそ、子どもたちも

市の施策に位置付けて
川崎市の青少年支援室施設指導・調整担当課長、係長共にたった1年で新しい方に変わり、実際に花の台学童ホールへ視察に来て頂きました。

（川崎市学童保育支部 勝山翔太 花の台学童ホール指導員）

5月に、川崎市へ「学童保育制度の充実」についての要請を行いました。以下、その内容になります。

①「子ども・子育て支援法」の主旨に則り、国の放課後児童クラブの補助
②放課後児童健全育成事業の「設備及び運営に関する基準」策定時の主旨を十分に踏まえ、「従うべき基準」を堅持すること。また、そのために必要な財政支援を行うこと。
③わくわくプラザ事業の

市からの補助金がないこの20年もの間、その時その時の保護者たちが、働きながらも学童保育の運営に携わり続けてきました。

安心して通うことができ、働く保護者たちも安心して仕事ができ、指導員も安心して学童保育で働き続けることができます
指導員の世代交代もどこの自主学童保育所でも課題になっており、新しく指導員になりたい人にとって、安心して長く働き続けるために、補助金は今すぐにも必要です。

「市の政策」の中に、私たちのような「自主学童保育」が入り、子どもたちの放課後の選択肢の1つとして、保護者の多様なニーズの選択肢の1つとして、わくわくプラザだけでなく、自主学童保育が位置づけられるよう、これからも引き続きがんばっていききたいと思

保護者運営にも補助金あわせ
川崎市支部が市と交渉
補助金なしで20年
金を保護者会運営の学童保育各所に下ろすこと。その為に必要な要綱を作成すること。
の登録児童数を示し、わくわくプラザ事業で対応が可能という根拠を明らかにすること。
市からの補助金がないこの20年もの間、その時その時の保護者たちが、働きながらも学童保育の運営に携わり続けてきました。

学童保育部会総会
9月22日（日）13時～
23日（月・祝）12時
建交労中央本部にて
@各地域からぜひご参加ください。

わくわくプラザも併せて視察に行かれ、どちらの子どもたちも「楽しそうにしていた」と答えるだけで、本質についての理解はなく、何が問題なのか、その問題に対してどう対策していくのか何も伝わってきませんでした。